

いきいきとした暮らし、地域の つながりづくりをすすめます

地域課題の解決に向けて、地域でのつながりや協働が
広がり、地域の団体・個人がそれぞれの力を発揮し、
いきいきと活躍できる「まち 暮らし」



何の数字

32カ所
つどい場の数 (P11)



3441人 (2024年度)
地域つながるミーティング参加者 (P10)

11市2町2団体
行政や地域団体との包括連携協定 (P12)

地域との対話の出発点 「地域つながるミーティング」をすすめています

2022年2月からスタートした「地域つながるミーティング」は、総代や地域コープ委員、サークル活動を行う組合員だけでなく、行政や社会福祉協議会、NPOなどの団体、地域で活動する個人やグループが参加し、対話を通じて人や組織がつながる場です。2024年度は、延べ3441人が参加。地域の課題について話し合い、各々の強みを生かし、課題解決につなげています。より良い地域づくりをめざし、さまざまな活動が生まれるきっかけとなっています。



地域の課題について話す組合員や地域の活動者



地域の居場所を増やしています

つどい場は、誰もが気軽に立ち寄り、さまざまな用途で活用する地域の拠点。地域をより良くする新しい取り組みが始まることもあり、たくさんのパワーが詰まった場所です。コープこうべは、誰もがいきいきと暮らせるよう、地域の皆さんと共につどい場づくりをすすめており、32カ所に広がりました。



みんなほくほく つどい場ばんぶー (西宮市)



営業終了したコープ東加古川の隣接地にオープンした東加古川コープのつどい場「虹」

行政や地域と連携した居場所づくり

神戸市西区役所移転後に空いた玉津庁舎の1階・4階に、コープこうべが神戸市から運営を受託する地域のつどい場「たまろっと」が誕生しました。さまざまな個人・団体と共に、幅広い世代が集う地域の交流拠点づくりを開始。6月にオープン記念イベントが開かれ、約3000人でにぎわいました。



寄贈本を中心としたライブラリー (4階)



玉津のつどい場「たまろっと」オープンの様子

子ども食堂の活動が 広がっています

コロナ禍で休止または弁当のお渡しをしていた子ども食堂やコミュニティー食堂は再開し、各地で活動が増えています。新たな子ども食堂が立ち上がるなど、子どもの居場所づくりの取り組みが前進しました。48の子ども(コミュニティー)食堂がコープサークルに登録し、活動しています。



店舗の組合員集会所を利用した子ども食堂(コープ鈴蘭台東)

住まいの確保が困難な方を 応援しています

困難な状況にある女性と子どもを支援する「女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ」、学生・留学生をサポートする「神戸学生青年センター」がすすめるプロジェクトに協力しています。コープこうべの旧女子寮を、住まいの確保が困難な女性向け共同住宅に転換した「六甲ウィメンズハウス」が完成しました。キッズスペースやコミュニティーカフェ、学習室なども設置。今後も食材提供などの支援を続けていきます。



6月にオープンした「六甲ウィメンズハウス」

1 お買い物を通じた暮らしの
安心づくりをすすめます

2 いきいきとした暮らし、地域の
つながりづくりをすすめます

3 環境や社会のためになる活動・
事業モデルを促進します

行政や団体と協定を結び 連携を強めています

4月に宍粟市、6月に三木市、2025年3月に三田市と包括連携協定を締結。包括連携協定の締結先は、11市2町2団体となりました。

くらしの課題は地域ごとに異なるため、行政や団体と包括的な連携を図り、これからもくらしの応援や地域の活性化、持続可能な社会の実現をめざし、地域との連携を図っていきます。



三木市との協定締結式の様子

参加の輪が広がっています

コピーポイントで募金ができる機能を、6月からコープこうべアプリの「コープ TOUCH」に追加しました。

これまで、コープこうべの奨学金や平和のカンパ、大船渡山林火災などの募金を呼び掛け、延べ1万57人が参加し、約200万円の善意が寄せられました。



コープこうべアプリに「ポイント募金」の機能を追加

若者とのつながりが広がりました

未来をつくる若者の応援を続けています。社会体験の機会として平和の旅を開催。被爆地の広島と長崎の戦争遺構を巡り、戦争について学ぶとともに、新聞づくりを実施。

また、震災を経験していない世代が被災地を巡るバス研修を計画するなど、コープこうべの活動を通じて若者同士のつながりづくりをすすめています。



野島断層保存館(淡路市)を見学



被爆地の広島市内を自転車で巡る中学生・高校生

生徒の学びの応援を続けています

2021年にスタートした「コープこうべの奨学金『てとて』」は4年目を迎え、11月には新たに88人が奨学生となりました。日々学業に励む奨学生に卒業までの期間、月額1万円を給付しています。2025年3月末現在の奨学生247人のうち、79人が高校などを卒業し、新たな道を歩み始めました。

また、奨学生同士のつながりづくりや社会体験などの機会をつくり、次世代を担う地域の若者が元気に学んでいけるようサポートしています。



奨学金の募金を呼び掛けるポスター

新たな学び合い・教え合い活動に向けて

コープカルチャー事業所の跡地で貸室運営を行う「ふれあいひろば(コレル)」は、新たに「コレル西宮」が稼働し、7カ所になりました。

「ふれあいひろば(コレル)」や「つどい場」は、学び合い・教え合いの活動を継承し、新たなコミュニティとなっています。



8月にオープンしたふれあいひろば「コレル西宮」

助け合いの輪を広げています

大阪北地区の助け合い制度「コープむつみ会」は活動開始から40周年を迎えました。これまでの活動を振り返るとともに、会への思いを寄せた記念誌を発行。今後も心をつなぐ、会の発展に取り組みます。

また、兵庫県内の「コープくらしの助け合いの会」は、活動を広げるために説明会やカフェを開催。第1地区では、活動会員とコーディネーターがコープサークルを立ち上げ、「ふれあいカフェ」を開始。地域で活躍する「まちの看護師さん」に健康相談もできる居場所になっています。



40周年記念誌



西田紀子理事(前列中央)とコープむつみ会のコーディネーターの皆さん

食を通じたつながりが広がりました

第6地区では、兵庫県立明石南高等学校調理部とクッキングサポーターが協力し、若者の食の課題でもある「朝食」をテーマに健康づくりに取り組みました。朝食に関する実態を把握するため、校内でアンケートを実施。508人からの回答をもとに、栄養バランスがよく、手軽な朝食のレシピづくりや試食を行いました。これからも共に、食を通じた健康づくりをすすめていきます。



明石南高等学校調理部とクッキングサポーターの皆さん

学生や地域と協働で 健康づくりに取り組みました

第3地区では、甲南女子大学と地域包括支援センター、コープ岡本が連携し「おかもとサロン」を開催。学習と体操を織り交ぜて、フレイル予防の機会づくりに取り組みました。

他にも公益社団法人兵庫県栄養士会と連携し、「食」と「フレイル予防」を掛け合わせた啓発イベントをコープ甲南、コープ北鈴蘭台、コープめふで新たに実施しました。



甲南女子大学の学生らが企画したフレイル予防体操の様子

1 お買い物を通じたくらしの安心づくりをすすめます

2 つながりづくりをすすめます、地域のいきいきとしたくらしを

3 環境や社会のためになる活動・事業モデルを促進します